

1. 報告要旨

日本政府は米国の高速炉開発計画に相乗りすることで、六ヶ所再処理工場の正当化を図っている。本企画は再処理中止という最終ゴールに向け、日米が共同で進める高速炉開発について問題提起し、国内外で議論を喚起することを目指した。

六ヶ所再処理工場は度重なるトラブルのために完工時期が 26 回も延期されている。事業主体である日本原燃は「24 年度上半期」の竣工を目指すとしているが、現状では審査に入るための要件さえ満たしておらず、運転開始はいつになるのか不透明なままである。それにもかかわらず、日本政府は再処理を前提に原子力発電を「国の責務」で維持・拡大することを「原発 GX 法案」の中に明記した（23 年 4 月 27 日衆議院可決）。しかし高速原型炉「もんじゅ」の失敗が示すように、日本の核燃料サイクル計画は既に破綻しており、現有の、そして今後、再処理で取り出されることになるプルトニウムをどう消費するのか、また、再処理で生み出される高レベル核廃棄物をどこが引き受けるのか、具体的な見通しは立っていない。

そうした中、米国との高速炉開発協力は、核燃料サイクル政策と再処理技術を保持するための拠り所となっている。そこで本企画は、日米による高速炉開発について、(1) 問題点を明らかにすること、(2) セミナーやシンポジウムを通じて議論を喚起すること、(3) 国会議員に働きかけ、この問題を政治アジェンダに押し上げること、の三点を目標に据え、以下を実施した。それらは、①高速炉開発について分かりやすくまとめた資料（日英）の制作・発信、②日本の高速炉開発の欺瞞を明らかにするオンラインセミナーの開催、③日米共催オンラインシンポジウムの開催、④前記のセミナー及びシンポジウムを記録した動画（後者は日英）・パンフレット（日英）の制作・発信、⑤議員への働きかけと省庁交渉、などである。

これらのうち、米ジョージ・ワシントン大学エリオット国際関係大学院とともに日米同時開催したオンラインシンポジウムには、米国からは政府高官を務めた科学者、元・原子力規制委員会委員長、日本からは「もんじゅ」訴訟弁護団弁護士、NGO 代表が登壇し、高速炉はエネルギー、気候変動、核廃棄物のいずれの対策にもならないこと、核拡散を助長することなどが具体的に示された。参加申込者数は日本と海外合わせて 175 名（国会議員 8 名を含む）となり、国内外に問題提起していくうえでの足掛かりを得た。

以上の活動から得られた成果は、さらなる調査、省庁交渉、海外（特に米国）の団体・個人との協働をはじめ、今後の取り組みに活用していきたい。

2. 成果物

1. 「[The Capital of Japan's Nuclear Fuel Cycle : Forgotten Aomori Shimokita Peninsula](#)」『ND Policy Brief』 Vol.6-E（2022.7.25）
2. 「[16 years since the International Critical Review Committee \(ICRC\) on the Long-Term Nuclear Program —What has changed and what has not changed?](#)」『ND Policy Brief』 Vol.10-E（2022.5.31）
3. 「[The German Experience: Reprocessing-exit and Energy Shift](#)」『ND Policy Brief』 Vol.11-E（2022.05.31）
4. 「[Nuclear Fuel Cycle and Aomori Prefecture](#)」『ND Policy Brief』 Vol.12-E（2022.5.31）
5. 「[Security Implications of Plutonium Stockpiles in Asia and Beyond](#)」『ND Policy Brief』 Vol.13-E（2022.6.2）
6. 「[Pyroprocessing in South Korea](#)」『ND Policy Brief』 Vol.14-E（2022.6.2）

| | |
|-----|---|
| 7. | 「 China's Plutonium Recycling Programs : Status and Issues 」『ND Policy Brief』 Vol.15-E (2022.6.2) |
| 8. | 「 Japan's Plutonium Policy: Lost in the Dark 」『ND Policy Brief』 Vol.16-E (2022.6.2) |
| 9. | 「 The UK Experience: Reprocessing to extract plutonium; creating high level liquid radioactive waste and contamination 」『ND Policy Brief』 Vol.17-E (2022.5.31) |
| 10. | 「 高速増殖炉から高速炉、そして無用の長物へ 」『ND Compass』 (2023.3.27) 同英語版「 From the Fast Breeder Reactor to the Fast Reactor, and on to a White Elephant 」 |
| 11. | 動画「 戦争を想定していない原発が抱える破滅的リスクと莫大なコスト 」(2022.4.26) |
| 12. | 動画「 『六ヶ所再処理工場にブレーキをかける』山田清彦氏が村長選に立候補 」(2022.5.27) |
| 13. | 動画「 【解説】日本のプルトニウム問題と削減に向けて 」(2022.7.5) |
| 14. | 動画「 The Plutonium Problem : Japan's Nuclear Fuel Cycle 」(2022.12.3) |
| 15. | オンラインセミナー「 高速炉で『核のゴミ』を減らす？——まやかしの高速炉開発と六ヶ所再処理工場との関係 」(2022.9.30) 記録動画 (2022.11.4) 資料「 高速炉で『ガラス固化体の隔離期間短縮と高レベル廃棄物減容』のトリック 」(今中哲二) 資料「 原子力小委員会革新炉WG 」(松久保肇) 資料「 米国の高速実証炉地元で交錯する期待と不安 」(廣田孝明) 報告冊子 (2022.12.21) |
| 16. | オンラインシンポジウム「 日米の高速炉開発協力を問う 」(2023.3.11) 記録動画【日本語】 (2023.3.28) 記録動画【英語】 (2023.3.28) 資料「 ナトリウム冷却高速中性子炉とプルトニウム分離を推進する米エネルギー省の新たな—しかし—不毛な試み: 日本の原子力研究・開発コミュニティはなぜ参加したがるのか 」(フランク・フォン・ヒッペル) 資料「 もんじゅの失敗 」(海渡雄一) 資料「 核廃棄物及び気候変動対策における高速炉の役割とその含意 」(アリソン・マクファーレン) 資料「 六ヶ所再処理工場の現状と高速炉開発との関係 」(アイリーン・美緒子・スミス) 報告冊子 (2023.3.30) |
| 17. | 報告「 プルトニウムと 六ヶ所再処理工場—核燃料サイクルの現実と東アジアの安全保障— 」(2022.10.5) |
| 18. | 原子力施設等に対する武力攻撃への対応等に関する省庁交渉 (2022.11.11) |
| 19. | 中居広起「 【検証】なぜ日本は核燃料の『再利用』にこだわるのか 」『News Pics』 (2022.6.9) |